

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-51C	13-033	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Time characteristics of the effect of alcohol cessation on the risk of stomach cancer--a meta-analysis. 胃癌リスクへの禁酒の効果の時間的特性-メタアナリシス		
<b>執筆者</b>		
Jarl J, Heckley G, Brummer J, Gerdtham UG.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2013 Jun 20;13:600. doi: 10.1186/1471-2458-13-600. Review.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
禁酒、胃癌、メタアナリシス		23786883
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景・目的：</b> Bagnardi ら (2001) のメタアナリシスにおいて、飲酒が胃癌リスクを上昇させるということが明らかとなった (大量飲酒者のオッズ比は 1.32)。しかし禁酒が、この飲酒で上昇したリスクを元通りに回復させるかどうかは明らかではない。</p> <p><b>方法：</b> 禁酒後の年数と胃癌のリスクについての量反応関係についてのメタアナリシスを行うために系統的レビューを実施した。結果に異質性がみられる場合は一般化最小 2 乗法による変量効果モデルを使用した。</p> <p><b>結果：</b> 系統的レビューによって 19 の観察研究が抽出され、そのうち禁酒期間と胃がんリスクの関係が定量化されていたのは 5 つの研究で胃癌症例は合計 1,947 症例であった。胃癌リスクと禁酒との関連は有意でなかった (オッズ比 0.99、信頼区間 : 0.97~1.02)。</p> <p><b>結論：</b> 今回の結果は、この領域の研究の数が限られていることによる。最近の結果は、過剰飲酒と胃癌、特に胃噴門以外の胃癌の関連を示唆しているが、中等量の飲酒では関連が示されていない。このメタアナリシスに含まれた 5 つの研究のうちの 1 つ以外はアルコール消費量で調整されていないことから、この研究では禁酒によるリスク減少が中等量飲酒と大量飲酒の間で異なるかについて検討することはできなかった。</p>		